

(様式1)

平成28年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 103	提案機関名 一般社団法人 神奈川県養豚協会
要望問題名 養豚農家における飼料用米を活用した銘柄豚肉認定基準について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 近年、畜産経営において家畜の飼料への米の有効活用が言われている。平成26年度、養豚協会において、銘柄豚肉指定飼料のトウモロコシの一部を飼料用米に置換え豚への給与試験を行い、両飼料間に有意差がないことを確認した。 そこで、飼料用米給与による、本県の養豚農家の実態にそくした県下統一の新たな銘柄豚肉認定基準を作成するにあたり、飼料用米の有効な給与方法や認定基準の設定方法についてお教え願いたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	畜産における飼料用米利用については、全国的に注目された技術となっており、国での既存の研究成果等を中心にとりまとめた「飼料用米の生産・給与技術マニュアル」が作成され、そのデータをもとに飼料自給率向上や飼料用米給与による肉質の改善効果、地域の耕畜連携の目的で利用する生産者が増えている状況となっています。 神奈川県内においては、一部に利用している生産者もいますが、県内での飼料用米生産量が少ないこともあり、まだ取り組み事例は少なく、今後、活用されていく技術と考えます。 要望にもあります、(一社)神奈川県養豚協会が実施した飼料用米の実証については、当所も協力させていただいた経過もあり、今後とも県内農場で行われる現地調査に協力し、本県の養豚経営に即した飼料用米の有効活用のための課題解決に取り組みたいと思います。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			